

A New Forma of Rosa paniculigen

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-12-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00056337

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



○ ウスアカミヤコイバラ (堀野末男) Sueo HORINO: A New Forma of *Rosa paniculigera*

昭和48年6月9日、淡紅色の花を着けているミヤコイバラを発見、標本を採集した。

加賀市尾中町地内、丘陵台地の林縁、農道わきである。附近は地下水の湧出地帯で、ハンノキ・イソノキ・サワギキョウ・ノハナショウブ・ミズスギ・アリノトウグサ・モウセンゴケ・コモウセンゴケ・ミズゴケの出現する湿地である。

新梢、等に徒長枝は赤味を帯びており、花卉はいずれも淡紅色で美しい。昭和56年6月15日(開花最盛期)に改めて標本を採集し、ここに発表させていただくことにする。

Rosa paniculigera MAKINO form. *rosiflora* HORINO form. nov.

Flores rosi.

Nom. Jap. Usuaka-miyakoibara (nov.)

Hab. Honshu: Onaka-cho, Kaga-shi, Ishikawa Pref. (Sueo HORINO; Jun. 15, 1981; Holotypus in KANA no. 100738)

○ トゲナシモミジイチゴ (井手一洋) Kazuhiro IDE: A New Forma of *Rubus palmatus*

昭和56年4月22日、石川県能美郡辰口町鍋谷地内の、日あたりのよい路ばたに、モミジイチゴを見つけ、採集し、観察したところ、刺が全くみあたらない。未だ未発表のようであるから、これをトゲナシモミジイチゴと命名し、ここに発表させていただくことにする。

なお、平素御指導をいたゞいている金沢大学理学部の里見信生先生に感謝の意を表する。

Rubus palmatus THUNB. form. *inermis* IDE form. nov.

Caulis toto inermis.

Nom. Jap. Togenashi-momiji-ichigo (nov.)

Hab. Honshu: Nabetani, Tatsunokuchi, Nomi-gun, Ishikawa Pref. (Kazuhiro IDE; Apr. 22, 1981; Holotypus in KANA no. 97747).

○ 日本の野生植物, III. 草本 合弁花類 佐竹義輔, 大井次三郎, 北村四郎, 亙理俊次, 富成忠夫 編。1981。平凡社。26.5 cm×20 cm(タテ×ヨコ)。カラー図版224ページ。本文235ページ。定価14,000円(特別定価13,000円)。

日本の種子植物のすべての草本を収録する図鑑として企画されたものの第III分冊(第1回配本)である。この図鑑の特徴は図がすべてカラー写真によっていることで、全巻合計3,234点もの写真が使われる予定とのことである。執筆には編者の佐竹義輔, 故大井次三郎, 北村四郎氏のほか14名の分類学者があたられ、日本の植物分類学を代表する人々によって、共同で作られた植物誌としても意義が大きい。

説明文は平易で、写真と照合して使えば、専門家でなくても十分活用できるであろう。写真には撮影の年月日と場所のデータが付記されており、資料的価値が大きい。亙理俊次, 富成忠夫の両氏は植物写真の分野で高名な方々であるが、72の個人あるいは機関が撮影した写真を記録性という点からだけではなく、それぞれの植物の持ち味や美しさも表現されるように編集されているので見るだけでも楽しい。

十分なことをいえば、撮影のポイントが形態と生態の一方にしぼり切れていないためどっちつかずの写真があること、高倍率のマクロの写真であまり良くないものがあることなどがあげられよう。なおI-単子葉類, II-離弁花類も1982年3月下旬までには刊行される予定である。(古池 博)

○ 洋種山草 森 和男著。A6版, 152頁, 定価500円。昭和56年2月, 保育社発行。

本書は保育社のカラーブックス524号であるが、著者には既に同名の著書があり(本誌第26巻第4号に紹介した)、少々まぎらわしい。しかし、カラー写真は美しく、線画とあわせて、珍らしい外国産の山草を知ることができてたのしい。また、本文には興味ある記事、例えば、“プラハの山草会”、“雨のドロミテにて”、“アラスカで出逢った花”、“ヒマラヤの青いケシ”などの他、栽培方法(用土・実生・灌水など)、輸入についての注意など細かい点まで書かれている。(里見信生)